

## [P2] 石狩川下流幌向地区における湿地再生に向けた取り組み

中島 康博<sup>○</sup> (国土交通省北海道開発局札幌開発建設部)  
矢部 和夫 (札幌市立大学)  
渡辺 雅裕 (国土交通省北海道開発局札幌開発建設部江別河川事務所)  
小本 智幸 ((株)ドーコン)  
坂元 直人 ((株)エコテック)

### 1. 背景と目的

石狩川の改修は低平湿地の農地等への土地利用を先導するための事業として始められ、現在の石狩川流域は日本の農業生産を支える大きな役割を持つまでになった。千歳川に合流していた石狩川水系支川夕張川においても、大正 11 年に開拓地の氾濫を抑える目的により、夕張川を直接石狩川に切り替える新水路工事に着手し、昭和 11 年の完成以降は流域の開発が可能となり、現在では豊かな農地が広がっている。

その反面、明治初頭に広がっていたボグ(≒高層湿原)等からなる幌向原野等の広大な湿地はその姿を消し、今では幌向原野の名残である高位泥炭が石狩川や夕張川の高水敷等に僅かに分布するのみとなっている。また、かつての幌向原野等に自生し、種名にホロムイを冠する湿生植物が絶滅の危機に見舞われているなど、湿地環境の質・量の低下を招いている。

本件は、このような湿地環境の改善を図るため、石狩川下流幌向地区においてボグを中心とした湿地再生に取り組むものである。

### 2. 石狩川下流幌向地区における湿地再生の概要

石狩川下流幌向地区では、地域と協働した湿地環境の再生を行うために、関係行政機関等や幌向地区に関わり湿地環境の再生・地域の活性化等に意欲を有する方をもって構成する石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップを立ち上げ、「石狩川下流幌向地区自然再生実施計画書」を平成 26 年 3 月に策定した。

自然界でボグが形成するには数千年の時間経過を要すると考えられている中で、幌向地区は高位泥炭が保全され、フェン(≒低層湿原)からの遷移を待たずにボグを再生することが可能な適地として希少である。しかし、地表面水位の低下に起因する高位泥炭の乾燥による劣化の進行や、それに伴う外来植物等の侵入が問題となっており、水文・水質環境の保全対策を行うことが喫緊の課題となっている。

ここでは、幌向地区の湿地再生に向けた取り組みの概要について説明するとともに、現在わかっている幌向地区の植生分布、水文・水質環境等について報告する。

なお、幌向地区に移植する湿生植物の選択・増殖、モニタリング、維持管理、利活用等については、ワークショップメンバーとともに今年度以降も引き続き議論を重ねる予定である。